



診療放射線科
木内 碧

マンモグラフィとは乳房専用のレントゲン検査です。最近はテレビなどで取り上げられることも多く、ご存知の方もいらっしゃると思います。

乳房の画像検査にはエコー（超音波）やMRIなどもありますが、マンモグラフィは一枚の写真に乳房の全体像を映し、左右を比較して診ることができ、主に腫瘍や石灰化の有無、大きさや形がわかります。石灰化とは、乳腺の中に存在するカルシウムの沈着物のことで、乳房にはさまざまな石灰化が見られることがあります。

■ 検査方法

マンモグラフィ検査では食事制限や事前に使用する薬品などはありません。撮影の範囲は乳房から脇の下を含めた部分で、上半身の衣服を全て脱いで行います。

撮影時はアクリルの圧迫板で乳房をはさんで固定します。検査時間は撮影枚数にもよりますが10分程度です。

× 禁忌 ×

妊娠中・授乳中の方、豊胸術後の方、ペースメーカーやCVポートなどの人工物が入っている片は基本的にマンモグラフィ検査を受けることはできません。但し、方向を変えて撮影したり、片側のみ撮影ということもありますので、該当項目のある方は主治医に撮影可能かご確認ください。

マンモグラフィというイメージとして一番強いのが‘痛み’だと思います。

マンモグラフィでは、できるだけ多くの乳腺組織を写真に収められるように乳房を引き寄せたり、引き出したり、薄く伸ばしたりして圧迫します。その際乳腺が硬く、伸展しにくいような乳房や、生理前などの乳房が張った時期には痛みを伴うことがあります。圧迫時間は撮影し終わるまで10秒程度かかります。痛みには個人差がありますが、生理前の時期で乳房痛がある方などは、生理が終わったあとの乳房の柔らかい時期に撮影すると痛みが少なく、乳房が薄く広がった、よい画像が得られます。

また、薄く伸展させることで以下のようなメリットがあります。

- ・乳腺の重なりが少なくなり、病変を見つけやすくなる。
- ・動きによるボケの少ない、きれいな画像が得られる。
- ・被ばくの影響を抑えられる。

当院は日本乳がん検診精度管理中央機構における技師の個人認定とともに、マンモグラフィ検診施設画像認定施設の登録も受けており、定期的に撮影画像や機器・線量の精度管理が行われています。

また、撮影は女性技師が行いますので、裸になることに抵抗のある方に少しでも安心して検査を受けていただければと思います。

